科目区分　大学院：特別支援教育専攻（前期）

授業科目　特別支援教育総論

特別支援教育講座　花熊　曉
受講者数　25 名

１．授業の目的

本授業は、大学院特別支援教育専攻の２つの専修に共通の必修科目で、大学院において特別支援教育の基礎研究や臨床研究を行うための基礎となる授業科目であるが、近年の特別支援教育の進展に伴い、ここ４～５年は特別支援教育専攻以外の大学院生の受講も多い。本授業は、日本 LD 学会・特別支援教育士資格認定協会が認定する特別支援教育士（S.E.N.S）の資格に対応しており、本授業の２単位を取得することで、S.E.N.S 養成セミナーの「特別支援教育概論Ⅰ・Ⅱ」の４ポイントに代替することができる。

本授業の目的は、以下の３つである。

⑴特別支援教育の歴史・制度について理解する。
⑵幼稚園、小学校、中学校、高校の通常の学級における支援体制作りの実際について知る。
⑶LD、ADHD、高機能自閉症等の知的な遅れのない発達障害の状態像とこれら児童生徒への配慮・支援の基本について理解する

２．受講者について

本授業の受講者は、特別支援教育コーディネーター専修 9 名、特別支援学校教育専修 4 名、特別支援教育専攻以外の院生 12 名（学校教育 5、臨床心理 7）の計 25 名である。

３．授業評価アンケートとその結果

授業評価は、ア）授業内容の理解に関するもの：３項目、イ）授業の進め方に関するもの：２項目、ウ）授業への感想と改善意見：自由記述、の計 6 項目からなる授業評価アンケートを授業終了時に実施した。回答者数は、教員採用試験で当日欠席した 2 名を除く 23 名だった。

（ア）授業内容の理解について

項目１「特別支援教育が求められる背景が理解できたか」については、“よく”と答えた者 20 名、“かなり”と答えた者 3 名であった。

項目２「学校・園における支援体制作り実際について理解できたか」については、“よく”13 名、“かなり”10 名であった。

項目３「発達障害の状態像とその支援の基本について理解できたか」については、“よく”17 名、“かなり”6 名であった。

（イ）授業の進め方について

項目４「教員の説明のしかたやプレゼンテーションのしかたは適切か」と項目５「授業で配布した資料の内容や量は適切だったか」については、23 名全員が“非常に適切”と回答していた。

（ウ）授業への感想と改善意見：自由記述

肯定的な評価が多く、「受講者一人一人に目が配られている授業だった」、「自分もこのような分かりやすい授業ができたらと思う」（現職教員）など授業者として非常に嬉しい回答も複数あった。その一方、「内容の多さから、時間的に無理かとも思うが、討論の機会などがあるとさらに良かった」との意見があった。

５．授業の評価と課題

本授業の受講者は、４つの専攻・専修にまたがり、その背景も現職教員、特別支援教育関連職種に携わる者、学部卒者と多様であるため、各受講者のニーズにマッチした授業をどう行うかが、授業者として最も心を配らなければならない点である。授業アンケートの結果が示すように、本授業に対する受講者の評価は肯定的であり、「年々刻々と変化する特別支援教育の最新の動向を理解する」という授業目的は概ね達成されたと考えるが、授業目的⑴～⑶のうち、⑵については、さらに理解が十分に行えるように配慮・工夫する必要がある。授業目的⑵については、後期に実施する「学校における支援体制」の授業を受講する者に対しては内容の一層の理解を深めることが可能であるが、後期授業を受講しない他専攻の院生に対しては、学校現場における特別支援教育の体制作りの実際と体制づくりにおける今後の課題について、より具体的なイメージが持てるような工夫を行う必要がある。